

# 日本地衣学会

# No.131

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 第14回大会（久留米工業高等専門学校，2015年7月4 - 5日）報告／  
 中嶋 裕之……………489  
 日本地衣学会第 14 回大会に参加して／近藤 博暉 …………… 492

## 第 14 回大会（久留米工業高等専門学校，2015年7月4-5日）報告

*Report of the JSL 14th Annual Meeting at Kurume, 4-5 July 2015/ by NAKASHIMA H.*

>>>>> 中嶋 裕之：大会実行委員長，久留米工業高等専門学校

日本地衣学会第 14 回大会を7月4，5日に久留米工業高等専門学校（福岡県久留米市）にて以下の要領で開催しました。参加者は，一般会員 18 名，学生会員 10 名，他 10 名（うち懇親会のみは1名）でした。

\* \* \*

### 大会日程

7月4日（土）  
 10:00 - 12:00 評議員会  
 13:00 - 14:00 総会  
 14:00 - 17:50 一般公開シンポジウム「光合成に関する最近の研究」 [Symposium "Studies about Photosynthesis"] (別記1)  
 18:30 - 20:30 懇親会 Banquet (プリチストンクラブ久留米)  
 7月5日（日）  
 10:00 - 12:15 一般講演 Oral presentation (発表12分，質疑3分) (別記2)  
 12:15 - 13:15 昼食 Lunch  
 13:15 - 15:30 一般講演 Oral presentation (発表12分，質疑3分) (別記2)  
 15:30 - 16:00 奨励賞受賞講演 Lecture of Prize winner  
 「日本産リトマスゴケ科地衣類の分類学的研究」／千葉県

立中央博物館共同研究員 坂田 歩美

### (別記1) 一般公開シンポジウム

「光合成に関する最近の研究」

[Symposium "Studies about Photosynthesis"]

14:00 - 14:10 開会挨拶 Opening remarks

14:10 - 15:50 (前半)

S1) 「紅色光合成細菌の明反応過程について」／有明工業高等専門学校 物質工学科 小林 正幸

S2) 「シアノバクテリアの光捕集と光受容に関わるタンパク質の構造と機能」／久留米工業高等専門学校 生物応用化学科 萩原 義徳

15:50 - 16:10 休憩

16:10 - 17:50 (後半)

S3) 「高等植物における光合成代謝機構の多様性とミトコンドリア呼吸特性の関わり」／九州大学大学院生物資源環境科学府 資源生物科学専攻 植物生産生理学研究室 畠山 有翔

S4) 「地衣成分による光合成電子伝達系への影響 ～地衣共生藻と他の植物種との違いについて比較検討～」／大阪府八尾市立大正中学校 高萩 敏和

(別記2) 一般講演プログラム

7月5日(日)

10:00-12:15 (午前の部)

A1) 日本産海岸生地衣類 (Marine and maritime lichens of Japan) / 原田 浩 (千葉県立中央博物館)

A2) 西表島のマングローブ林に生育するリトマスゴケ科地衣類 / 坂田 歩美\*・原田 浩\*\* (\*千葉県立中央博物館 共同研究員, \*\*千葉県立中央博物館)

A3) 日本産樹皮着生広義スミイボゴケ属 (*Buellia* s.l.) 地衣類の分類学的研究 (その2). 日本産の2新種について / 綿貫 攻\*\*\*・原田 浩\*\*\*・小峰 正史\*・原 光二郎\*・山本 好和\*・藤 晋一\* (\*秋田県立大学大学院生物資源科学研究科, \*\*千葉県立中央博物館共同研究員, \*\*\*千葉県立中央博物館)

A4) rDNA 領域の塩基配列を用いた南極産地衣類 *Usnea sphacelata* の分類 / 田中 征矢\*, 野中 歩\*\*, 中嶋 裕之\*\*\* (\*九州大学生物資源環境科学府資源生物学専攻, \*\*昭栄化学工業株式会社, \*\*\*久留米工業高等専門学校生物応用化学科)

11:00-11:15 休憩 Coffee break

A5) Revision on the genus *Arthonia* (Arthoniaceae) in Korea / 〇 Beeyoung Gun Lee (Korean Lichen Research Institute (KoLRI))

A6) Revisional study of *Pertusaria* (Pertusariaceae, Ascomycota) in South Korea / 〇 Jung shin Park and Jae-Seoun Hur (Korean lichen research institution, Sunchon national university)

A7) A contribution to the lichen flora of Vietnam, with one new and nine new record species / 〇 Dong LIU, Jae-Seoun Hur (Korean Lichen Research Institute, Sunchon National University)

A8) 地衣類の化学分類学的研究 (1), リケキサントンを含む種 / 〇 吉川 裕子\*, 原田 浩\*\* (\*千葉県立中央博物館 共同研究員, \*\*千葉県立中央博物館)

12:15-13:15 昼食 Lunch

13:15-15:30 (午後の部)

A9) EI-MS および <sup>1</sup>H-NMR を用いた地衣類縁種の分類の検討 — ヤグラゴケ *Cladonia krepelhuberi* などの例 — / 〇 甲斐 久博\*, 木下 薫\*\*, 原田 浩\*\*\*, 前田 明寛\*, 岡田 嘉仁\*\*\*\*, 松野 康二\*, 高橋 邦夫\*\* (\*九州保健福祉大学薬学部・薬学科, \*\*明治薬科大学薬学部・生命創薬科学科, \*\*\*千葉県立中央博物館, \*\*\*\*明治薬科大学薬学部・薬学科)

A10) *Usnea rubrotincta* 由来の菌藻共培養物における形態発達 / 〇 石原 峻\*, 原 光二郎\*, 小峰 正史\*, 山本 好和\* \*\* (\*秋田県立大学大学院・生物資源科学研究科, \*\*大阪市立自然史博物館)

A11) キゴケ属の地衣成分に対する銅汚染の影響 / 〇 藤本 尚希\*, 中島 啓光\*, 山本 好和\*\*, 雨宮 隆\*, 伊藤 公紀\* (\*横浜国立大学, \*\*秋田県立大学)

A12) ヤマトキゴケの地衣成分と色素に対する銅汚染の影響 / 〇 中島 啓光\*, 藤本 尚希\*, 山本 好和\*\*, 伊藤 公紀\* (\*横浜国立大学, \*\*秋田県立大学)

14:15-14:30 休憩 Coffee break

A13) 南極に生育する陸生光合成生物の光障害の波長特性と生育環境について / 〇 小杉 真貴子\*, 黒沢 則夫\*\*, 川又 明德\*\*\*, 亀井 保博\*\*\*\*, 小池 裕幸\*, 工藤 栄\*\*\*\*\*, 伊村 智\*\*\*\*\* (\*中央大学理工学部, \*\*創価大学理工学部, \*\*\*愛媛県総合科学博物館, \*\*\*\*基礎生物学研究所, \*\*\*\*\*国立極地研究所)

A14) *Ramalina conduplicans* におけるリビトール輸送体の探索 / 〇 吉野 花奈美 (千葉大学大学院園芸学研究所)

A15) *Usnea rubrotincta* 培養地衣菌の二次代謝関連遺伝子の網羅的解析 / 〇 近藤 博暉, 原 光二郎, 山本 好和, 小峰 正史 (秋田県立大学大学院生物資源科学研究科)

\* \* \*

日本地衣学会第14回大会は、初めて九州で開催することとなりました。



図1. シンポジウムの演者. 小林 (左上), 萩原 (右上), 畠山 (左下), 高萩 (右下) の各氏



図2. 一般講演の様子。演者は吉川氏

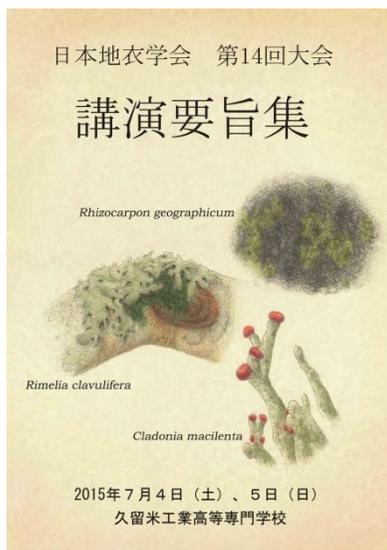


図3. 要旨集の表紙

1日目は、総会にて2014年度事業報告及び2015年度事業計画等の報告後、引き続き「光合成に関する最近の研究」と題し一般公開シンポジウムが開催されました(図1)。地衣類の共生藻は緑藻あるいはシアノバクテリアに限られますが、それ以外の光合成機構についても比較する意味で細菌の光合成について小林正幸氏(有明高専)に、ラン藻について萩原義徳氏(久留米高専)に、高等植物について畠山友翔氏(九州大)にそれぞれの講演をお願いしました。最後に、昨年9

月に学位を取得されました高萩敏一氏に地衣共生藻の光合成研究としてまとめていただきました。

夕方からの懇親会は、久留米の中で有名な一企業であるプリチストンが経営する「プリチストンクラブ」にて安く開催させていただきました。棚橋会長の挨拶に始まり、2時間弱の間でしたが盛会裏に終了いたしました。最後に、河原庶務幹事より第15回大会開催地が岐阜大であるとの報告がありました。また、以前Liu Dong氏に雲南の調査でお

世話になり、また原田浩氏とは学生の研究に関してやり取りがあったため、懇親会だけでも是非参加したいとのことで都甲由紀子氏も大分から駆けつけられました。

2日目は一般公演が開催され(図2)、分類、生態、光合成を含む代謝機構、耐性機構等各分野での計15件の発表がありました。8名の学生さんたちの発表もあり、今後の地衣類研究発展への期待を感じました。

一般講演後、坂田歩美氏(千葉県立中央博物館共同研究員)に学術奨励賞が、田中征矢氏(九州大)に学生発表B賞が授与されました。奨励賞を受賞された坂田氏による「日本産リトマスゴケ科地衣類の分類学的研究」と題した受賞講演を最後に2日間の第14回大会を終了しました。

ほとんどの参加者がその日のうちに九州から本州各地へ戻られるため、最後は慌ただしい閉会となりました。



図4. JR久留米駅に設置した看板。久留米観光コンベンション国際交流協会の支援による。

さて、皆さんお気づきになられたでしょうか。要旨集の表紙(図3)やネームプレートのデザインは、2年前に久留米高専の生物応用化学科を卒業した三上葉実氏が描いてくれたものです。現在、福岡県の食品会社に勤務しており、大会2日目には会場設営担当としても参加してくれました。

予算の関係もあり、手作りの大会になりましたが、少しでも九州をあじわっていただけておれば幸いです。

最後に、本大会の開催に当たりご協力いただきました方々並びにご支援いただいた久留米観光コンベンション国際交流協会に厚くお礼申し上げます。本支援には30名以上の久留米市内への宿泊が条件でしたが、これにご協力くださった会員の皆さまにもお礼申し上げます。



## 日本地衣学会第14回大会に参加して

*My Impression for the JSL 12<sup>th</sup> Annual Meeting at Kurume, July 2015/ by KONDOU H.*

>>>>> 近藤 博暉： 秋田県立大学大学院・生物資源研究科・博士前期課程1年

この度は初めて地衣学会大会に参加させていただきました。地衣類の研究を始めて約1年半経ちましたが、まだわからないことばかりです。今回の大会を通して、地衣類に関する知識だけでなく、こういった分野、視点から研究がなされているかを学べて非常に貴重な体験をできたと感じました。

私は、普段は地衣体より分離された地衣菌のみを材料に扱っているためか、地衣類の共生や共生相手の藻類に関する知識は非常に浅く、一般公開シンポジウム「光合成に関する最近の研究」では非常に多くのことが学べたと感じました。高萩敏和氏の「地衣成分による光合成電子伝達系への影響 ~地衣共生藻と他の植物種との違いについて比較検討~」は地衣由来のデブシド類による光合成電子伝達系での阻害部位を明らかにするという発表で、地衣類より産生される地衣成分が藻類の光合成を阻害していると拝見し、とても印象に残りました。地衣類は藻類と助け合って生活している

と学びましたが、発表を聞いて菌と藻の共生関係において菌が藻を制御しているような印象を受け、地衣類の共生のメカニズムに対して興味がわいてきました。地衣類はまだ解明されていないことが多く存在しますが、その分、大変面白い生物だと思います。あと1年半で大学院を修了してしまいますが、その間に地衣類について多くのことを学びたいと思いました。

地衣学会はアットホームな学会で、他大学の学生や先生方とたくさんお話ができ、地衣類に関して多くの方々の話が聞けて得られるものは非常に多かったと思います。今回の学会の経験や様々な分野の人との交流は、自分を大きく成長させてくれました。このような貴重な機会を頂けたことに感謝するとともに、日々の研究に対する意欲がさらに湧きました。今回の経験を生かして、日々の研究を進めていき、次の地衣学会大会では皆様が興味をもって頂けるような発表をしたいです。

### ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 131, pp. 489-492: eds. Kinoshita K., Komine M. & Harada H., published by the *Japanese Society for Lichenology*, 14 Oct 2015.

### 日本地衣学会ニュースレター 131号

発行日：2015年 10月 14日

編集：木下 薫・小峰 正史・原田 浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

©2015 日本地衣学会 (© 2015 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。